

—あの夜が一番
幸せだったから—

迫害竜娘

と

限界殺し屋

人語忘れて獣平ツチ

本文

83P

前作を未読の人向け
あらずじ

そろそろ
どこかで休

迫害された竜娘ティアと
殺し屋として育てられた
青年ナナが出会い

この人：
刃物を持つてる

だめ：
こんな時に体力が：

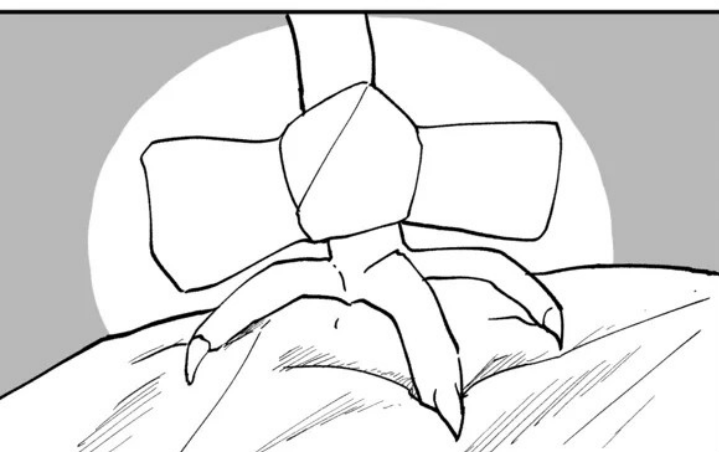
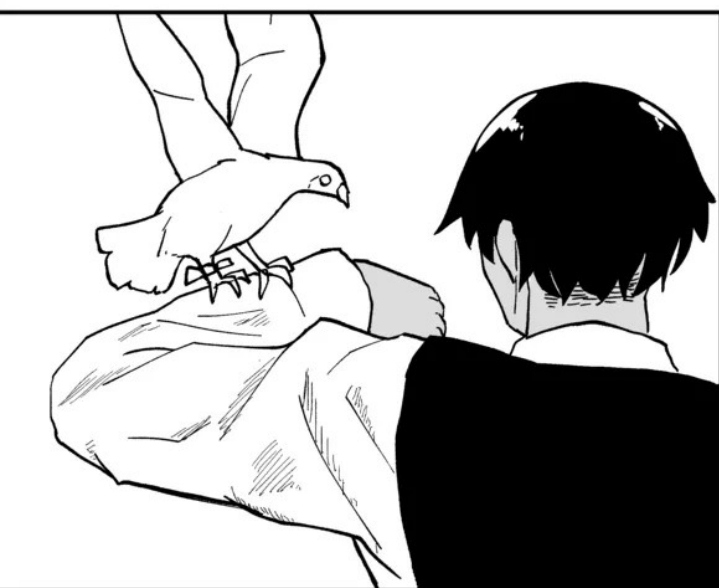
過酷な環境で心が
摩耗していた二人が
打ち解けあい

快樂に墮ちて
心を通わせたのであった

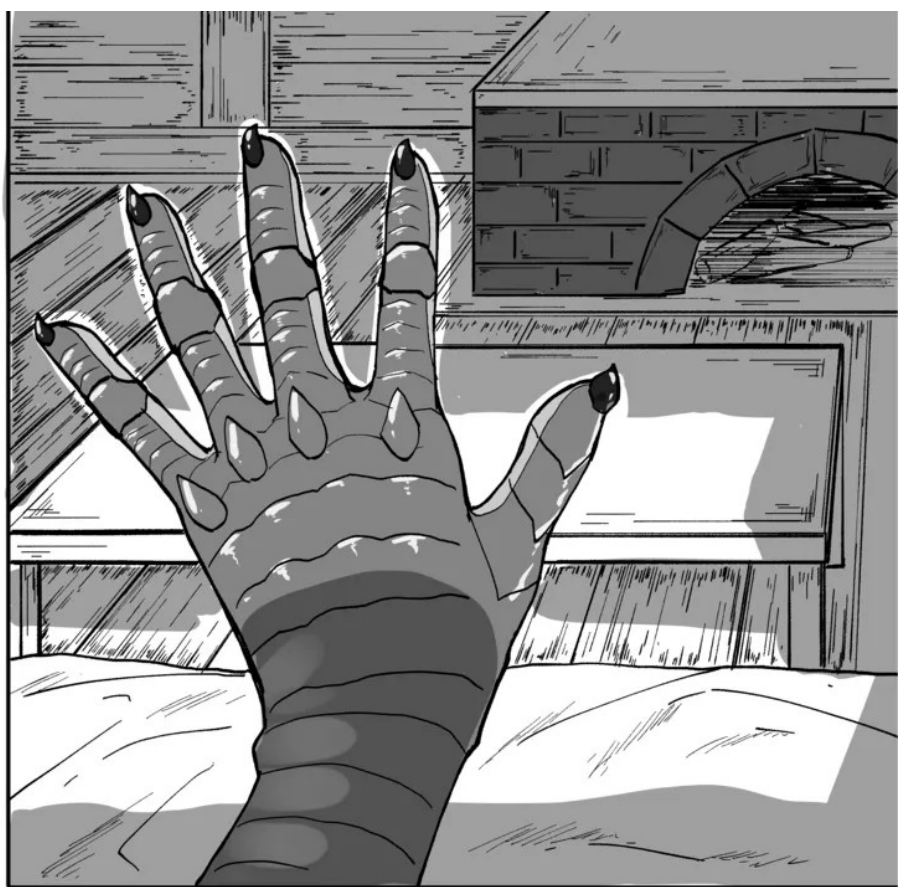
こんな姿の私に
やさしくして
くれて

嬉しかったから











この姿は
太くなる…



だらしない体…

だから
竜なんて
嫌いだった…

でも…



こんな姿の私でも…
好きになってくれる…

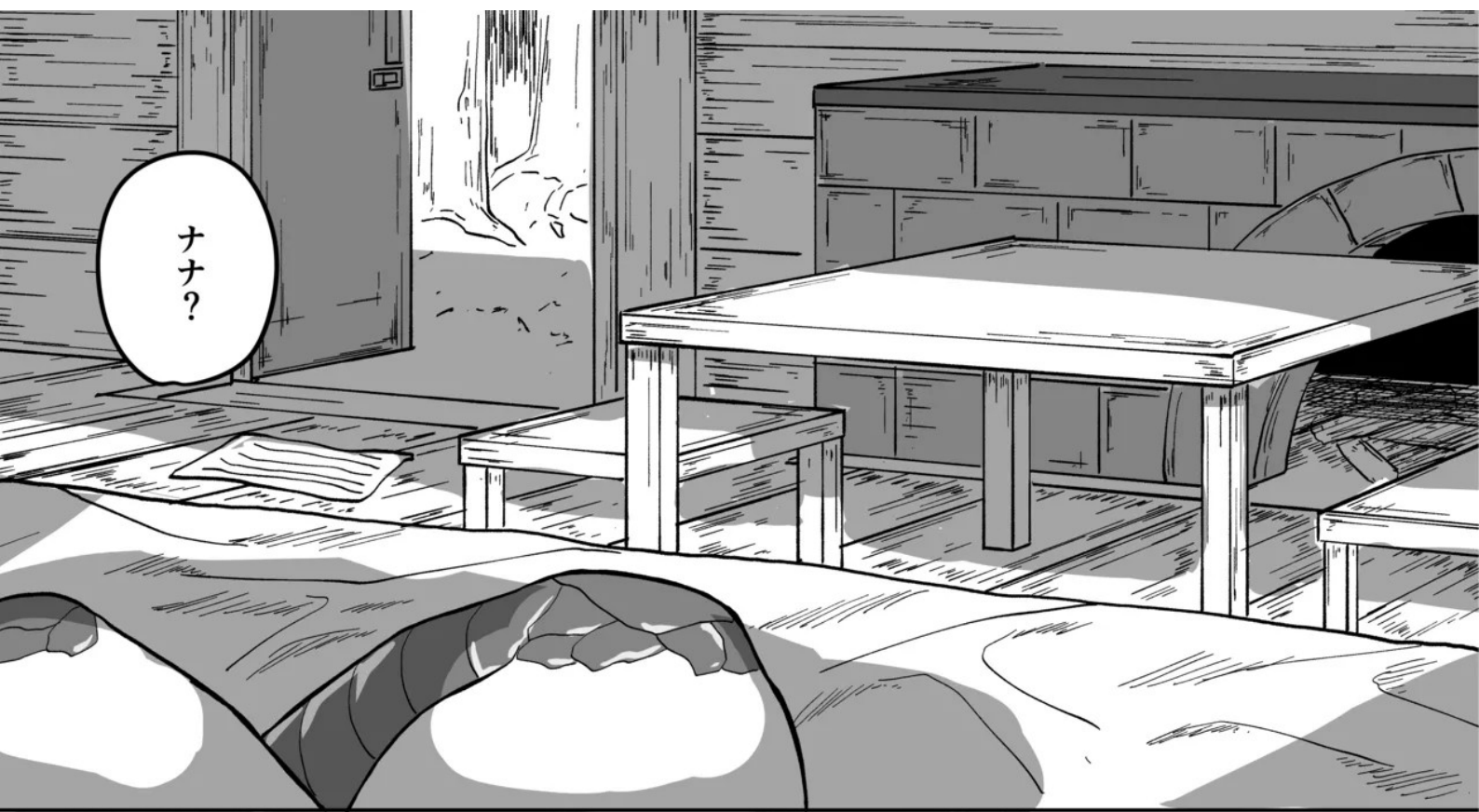
この姿を
受け入れられるの…?

どうして
竜が怖くないの…



あれ…

ナナ…?



ナナ?



7番
消費期限により
交代を命ずる

仕事の引継ぎは
8番が行う

なお
機密保持のため
7番は処分とする

7番…?
ナナのこと?



手紙…?

処分する日時は
本日の正午
広場に集合せよ

そんな…
いやだ

助けに行かなきゃ…

ガッ





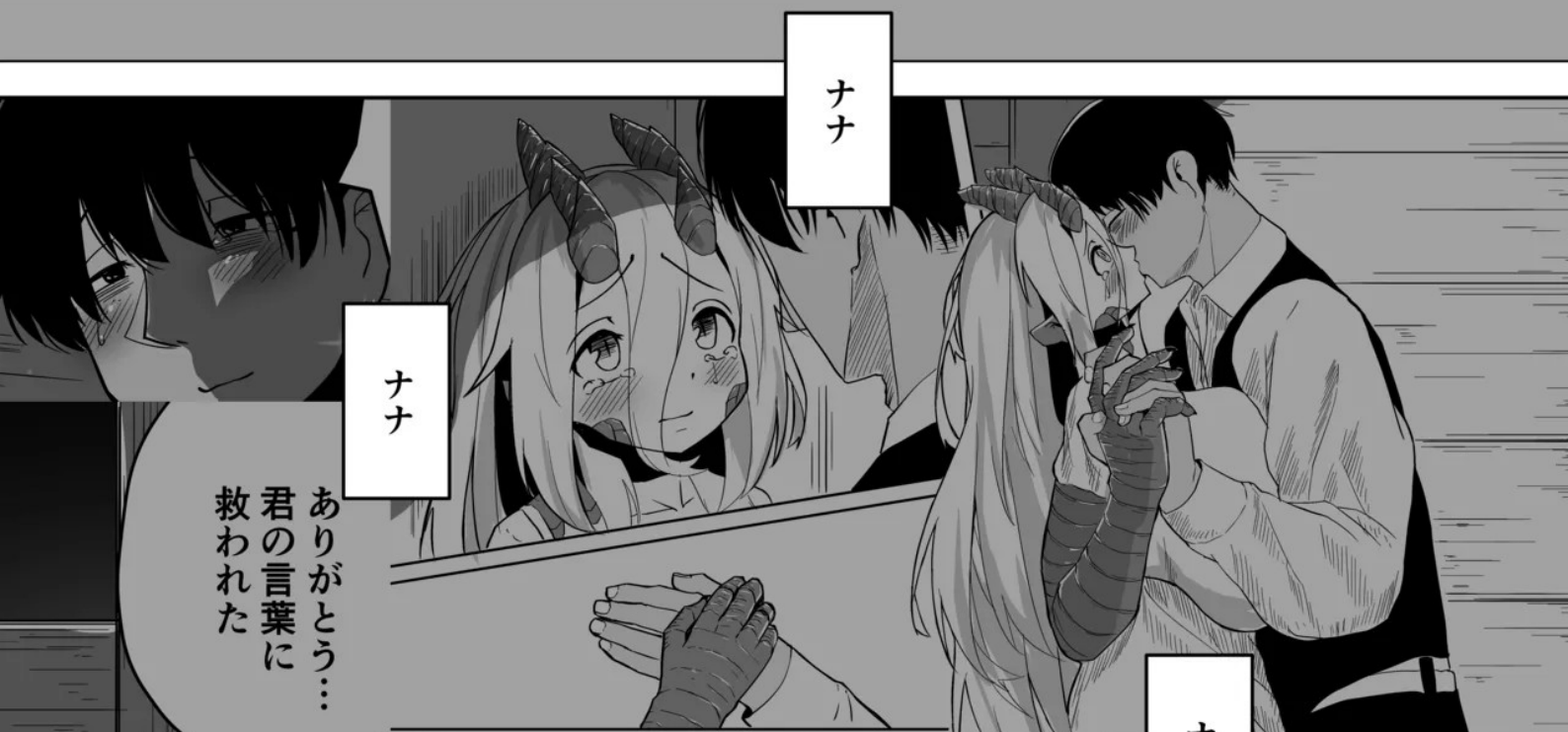
竜だから
迫害される

こわい

また
追われる



ナナ



ナナ

ナナ

ありがとうございます...
君の言葉に
救われた

ナナ



ぎゅ♡

ナナ

そして今日
竜の君が現れた
限界だった僕に
優しくしてくれた

だから僕は
竜が怖くない
今の君を
受け入れられる

ナナ

初めて言われた

この姿を…
この私を…
あなたなら…

なら…

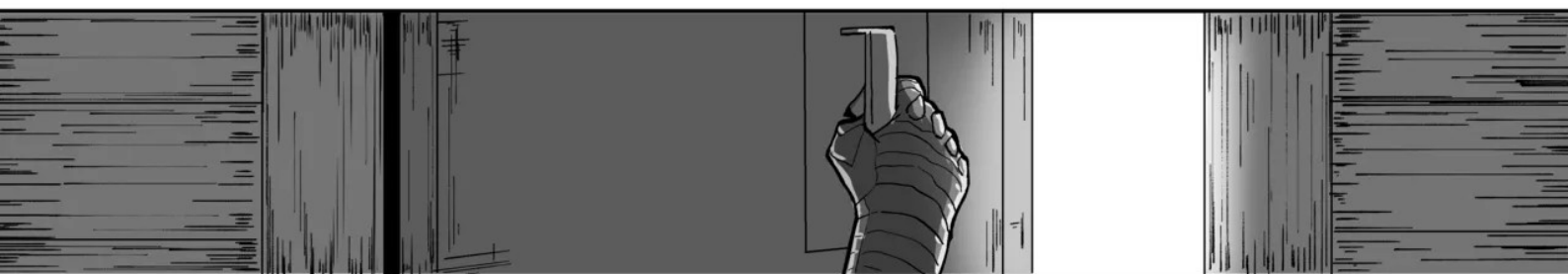
好きだ…
初めて見たときから…

こんな姿の私でも…
好きになってくれる…？



すごく怖い
けど

怖い



言ってくれた
アナタのために

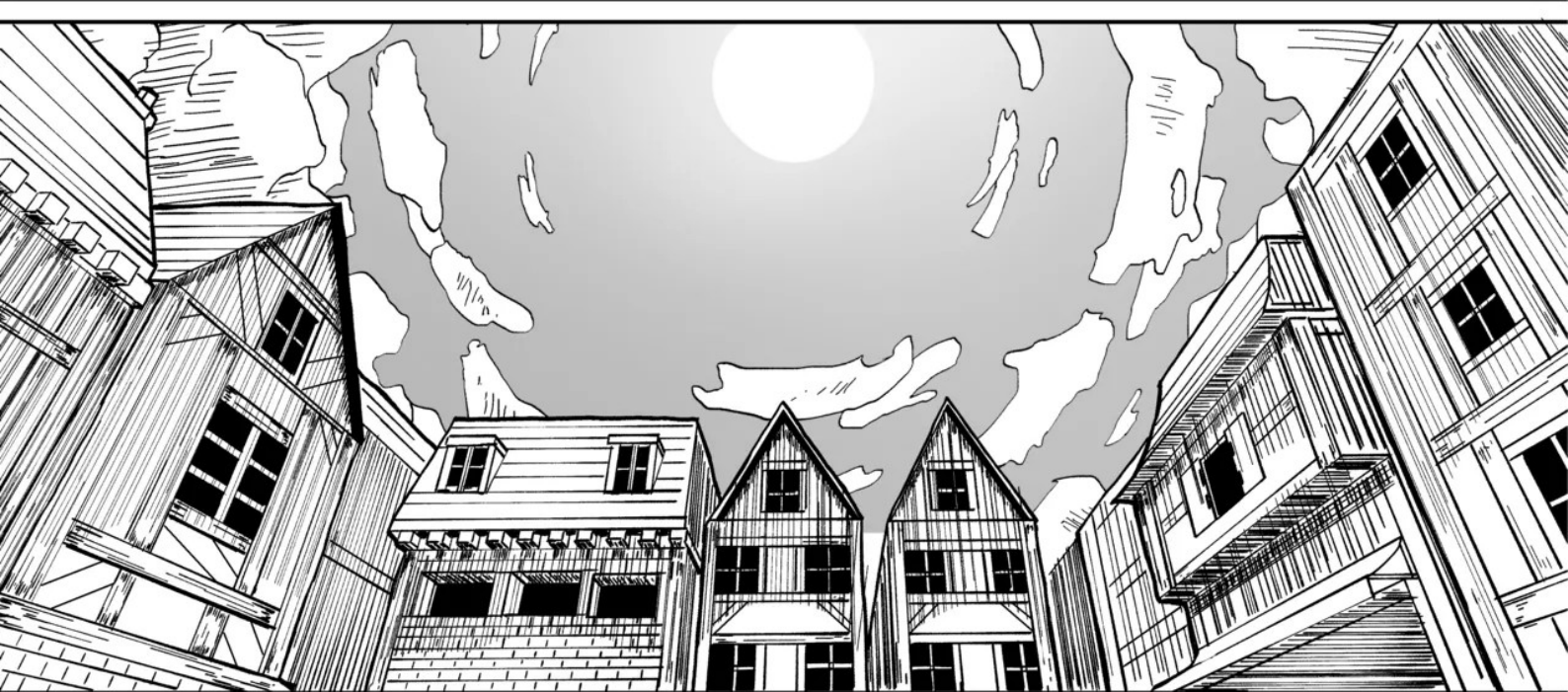
こんな竜の
私が好きって

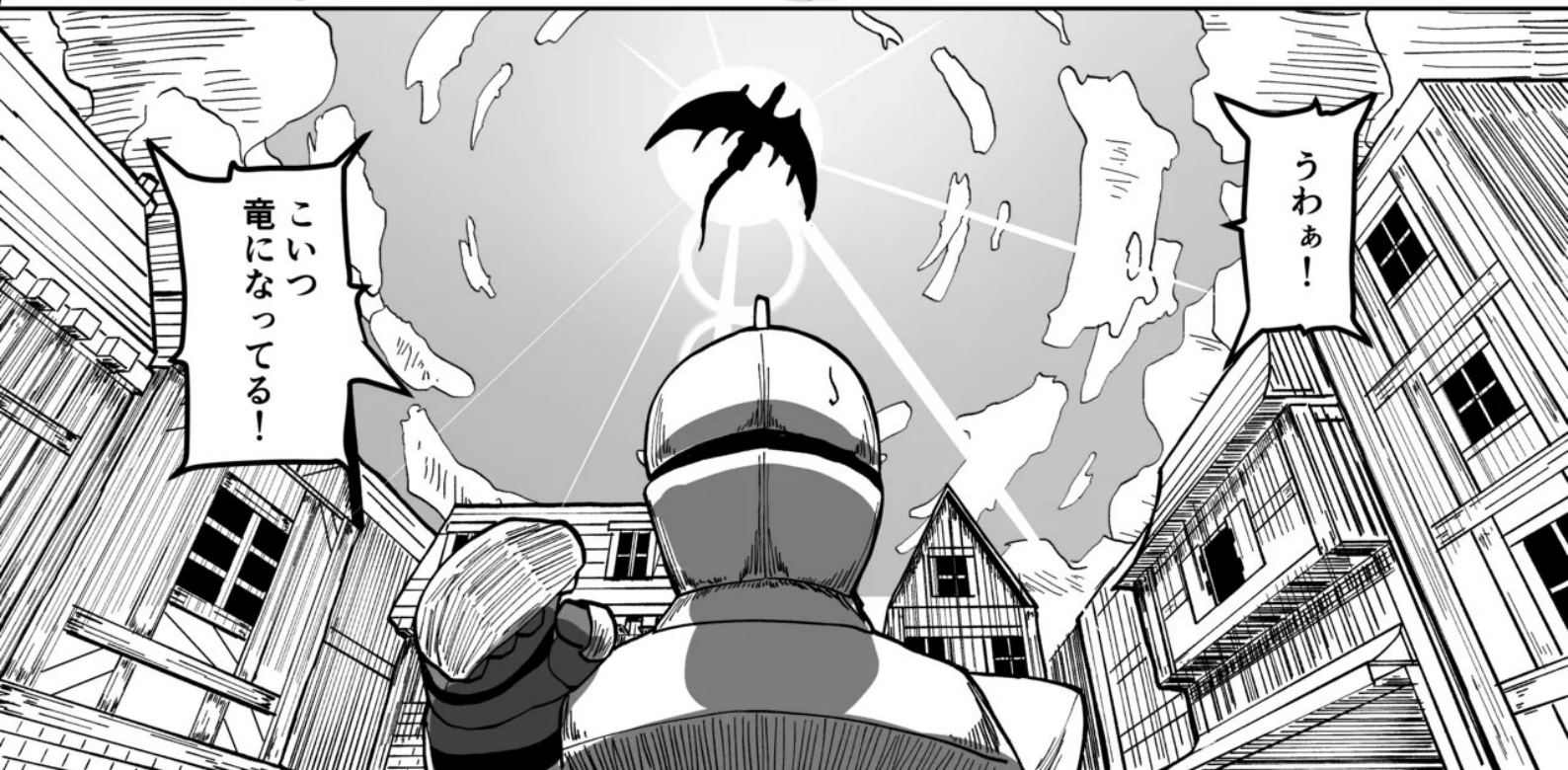
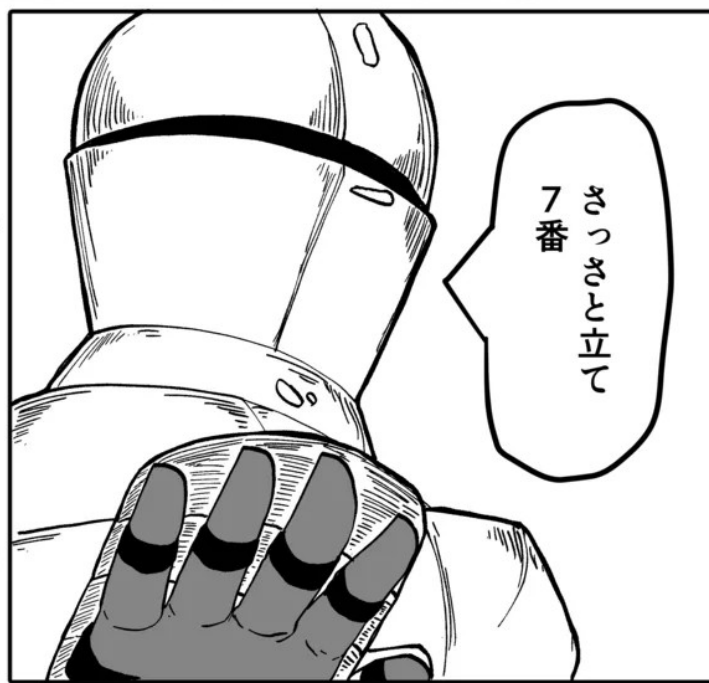


竜になる

私は

ブユオオオオ





(ナナから
離れる！)

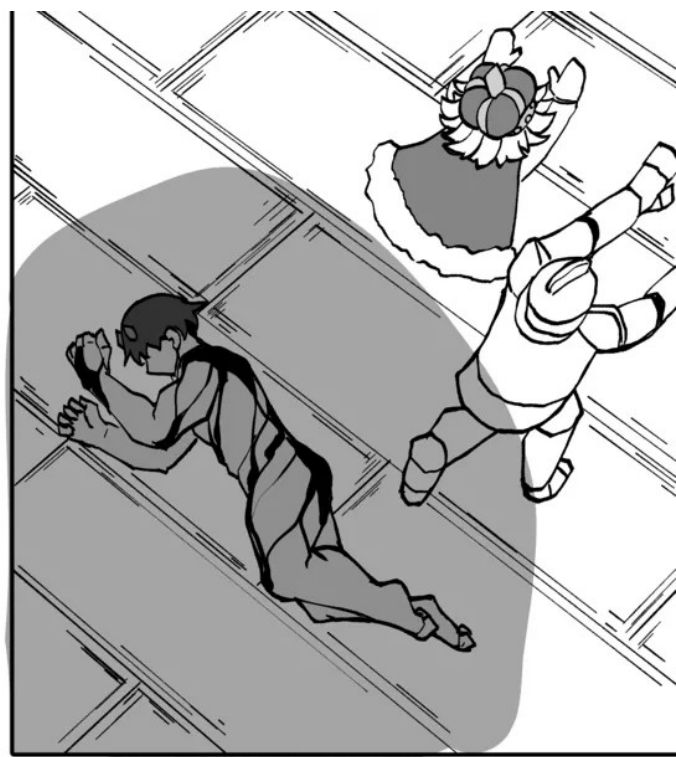
ゴ
ッ

ゴ
ッ

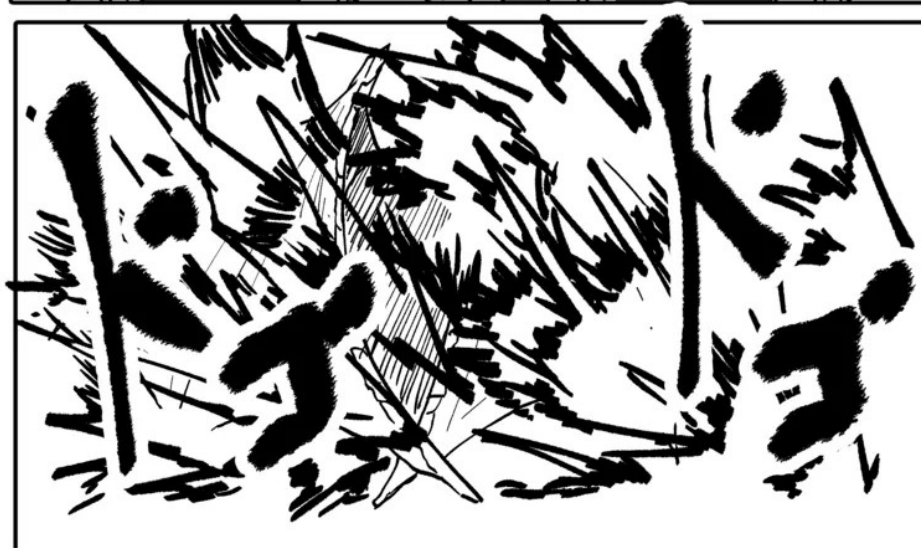
ゴ
ッ

ゴ
ッ









やつめ！
尻尾をまいて
逃げおった！
無様なやつよ！

やつは7番を
連れ去りましたが
いか程に…

放っておけ
手間が省けたものだ

フン
化け物が悔しくて
嫌がらせに
人ひとり
さらったのであろう
用済みとは知らずにな！
滑稽だわ！

そうか
もういいのか

人を殺さなくて
いいのか

よかった







もう
一人にしないで…



何も言わずに

私の前から消えないで



ごめんなさい…



王の命令で
処刑されることを知って
逃げようと思った

けど命令は—
絶対だから…
背けなかった

またズルするのかって
殺した人の声が
いっぱいになって
何も考えられなかった

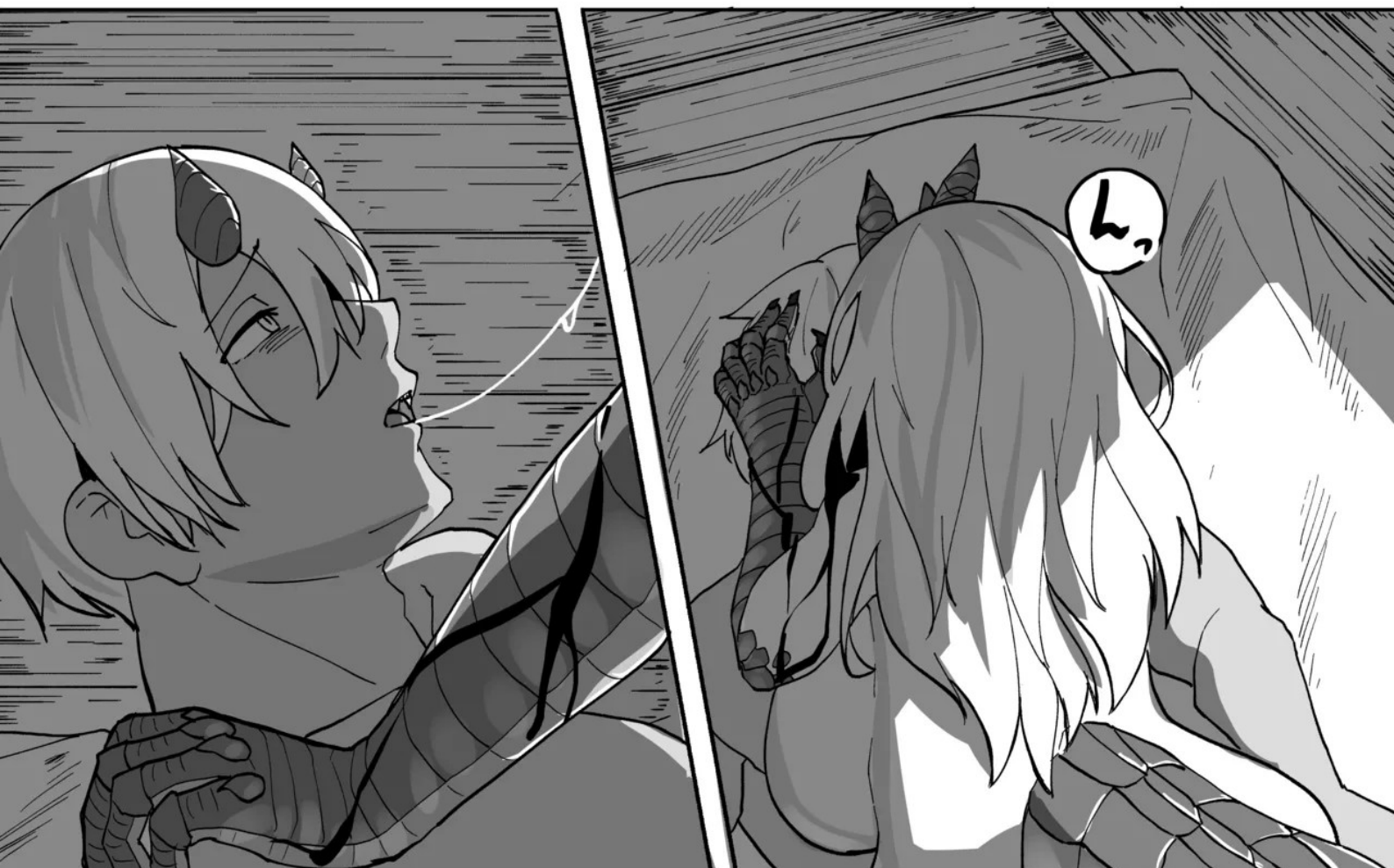


そんな事情
しるもんか…

自分のしたくない
ことなんてするな

殺した人のことなんか
忘れるくらい

幸せになれば
いいじゃん







だって…
アタシが一番
幸せだったこと

ナナとの
あの夜
だから



や…
アタシいま
啜えたばかりだし

まだ
イッてない



ごめん

ごめん
ティア



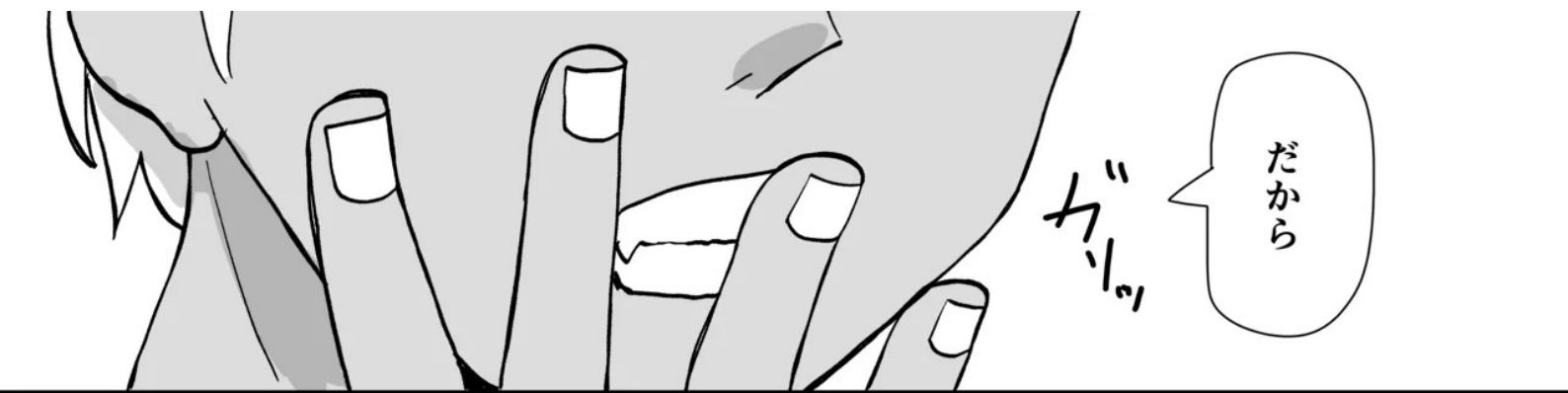
もう
いない人の
声に囚われない

ティアの声
だけ聞く

ティアのこと
ずっと見る



僕も
あの夜が
一番の
幸せだ



だから

「カッ」



君と一緒に幸せを作る
この指と血に誓って—

...



アハハッ

フフフ...

ラー—



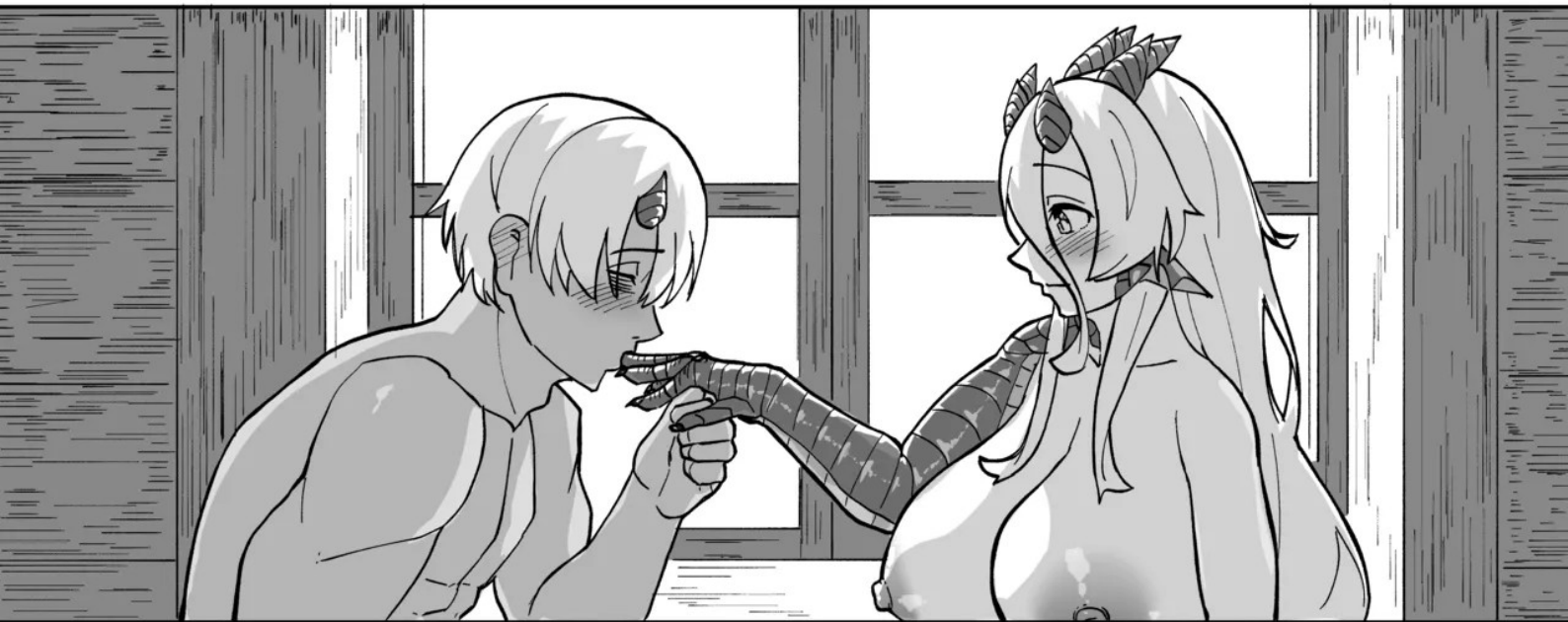
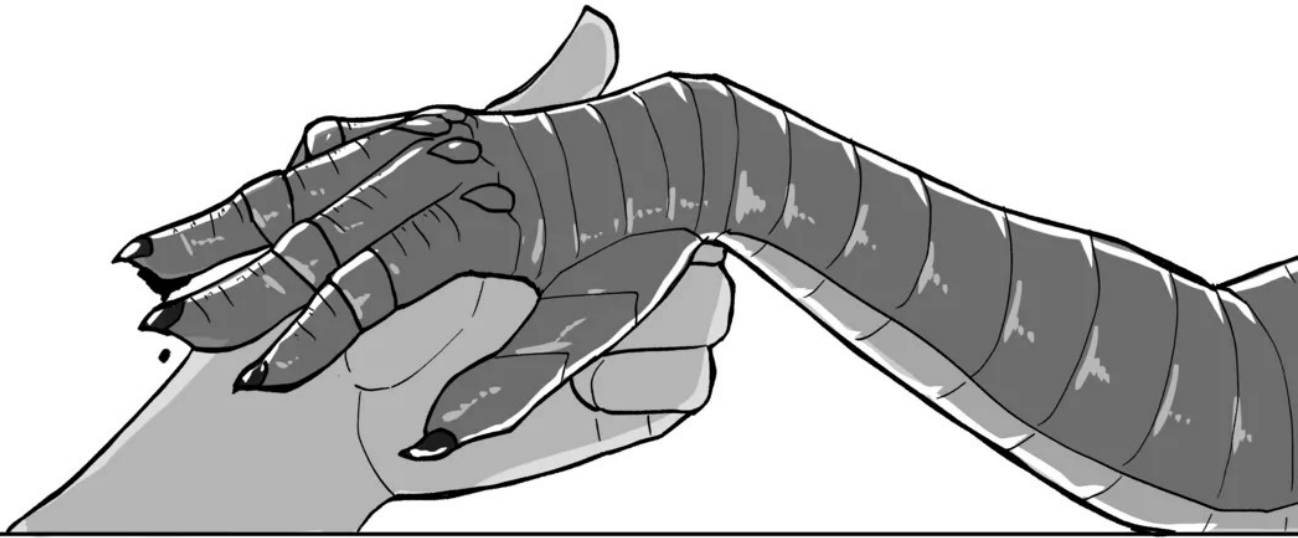
...ごめん

これは僕がいた職場
だけの作法だった...



竜が誓いあうときも

お互いの血を舐めるんだって





ティア
助けてくれて
ありがとう

フッフッフ

えへへ
あれくらい
どうってことないよ



あんなの平気
アタシ
竜だから

それにあなたもね



ケガは
大丈夫…？

大丈夫
もう塞がってる
ただ拭くの忘れてて
心配かけて
ごめんなさい…

いいんだ
痛い思いをさせて
ごめん



ハハ
ティアとおそろいだね



僕も
竜に...?
いつのまに

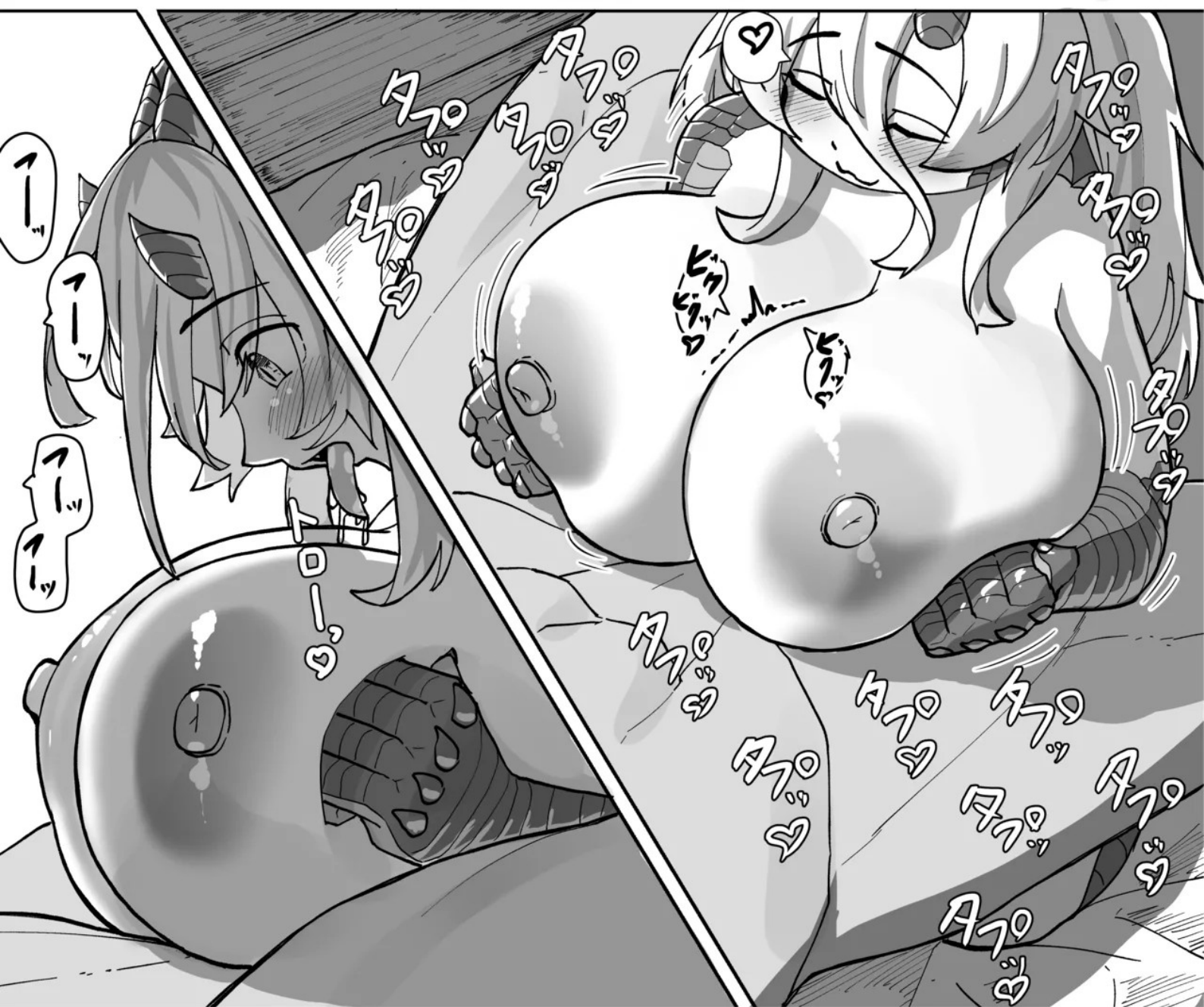
僕のケガが
塞がっていたのは
このためか



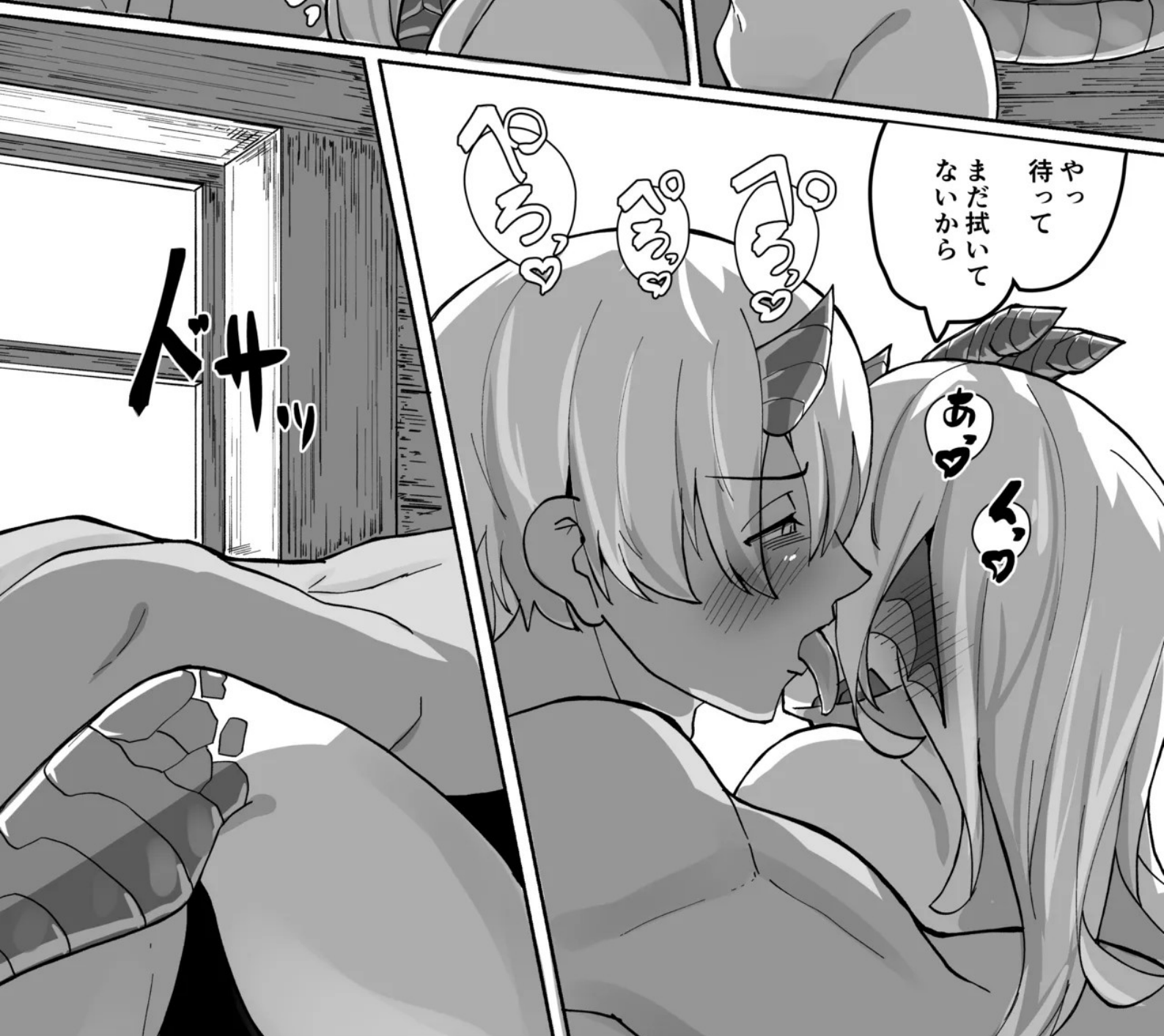
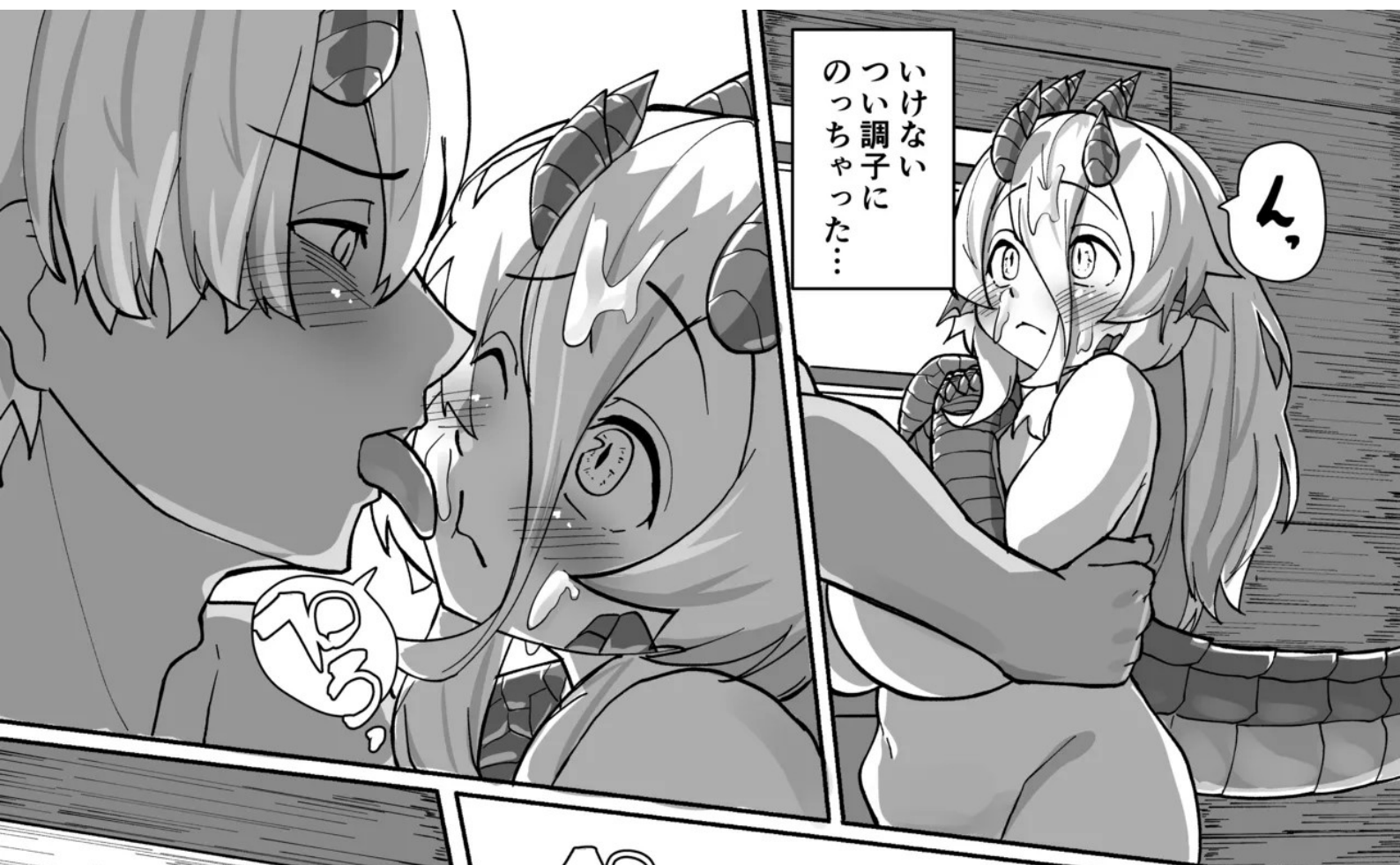
?

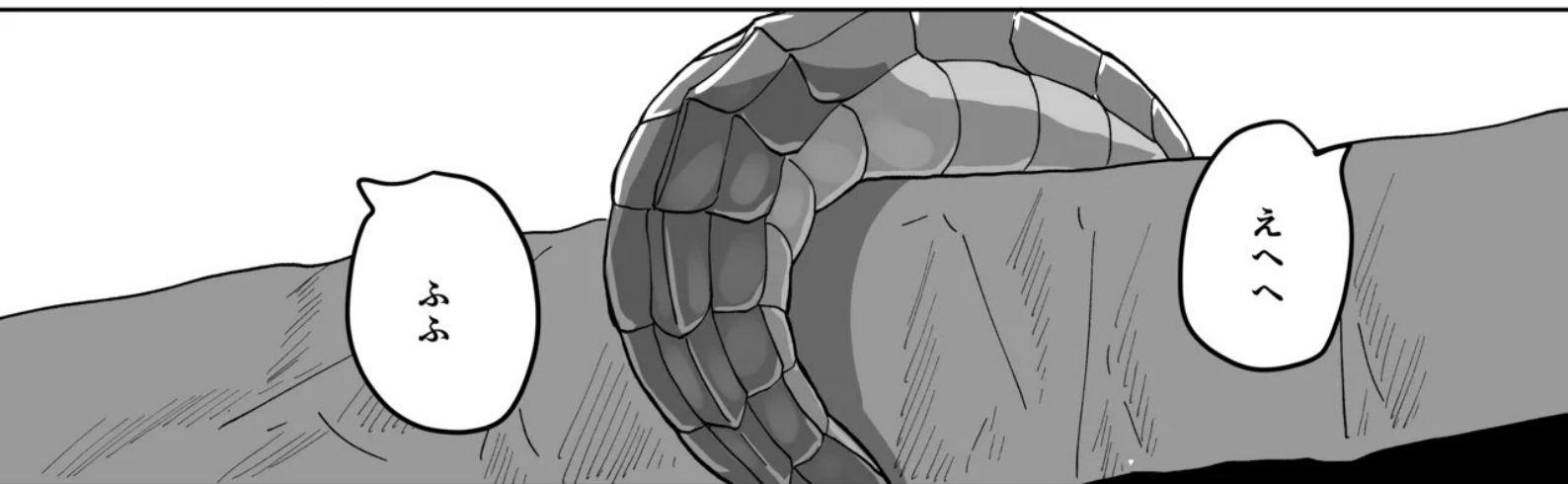
だから助けてくれた時
君の竜語がわかったのか—















焦らしちゃ
や...

周りばかり

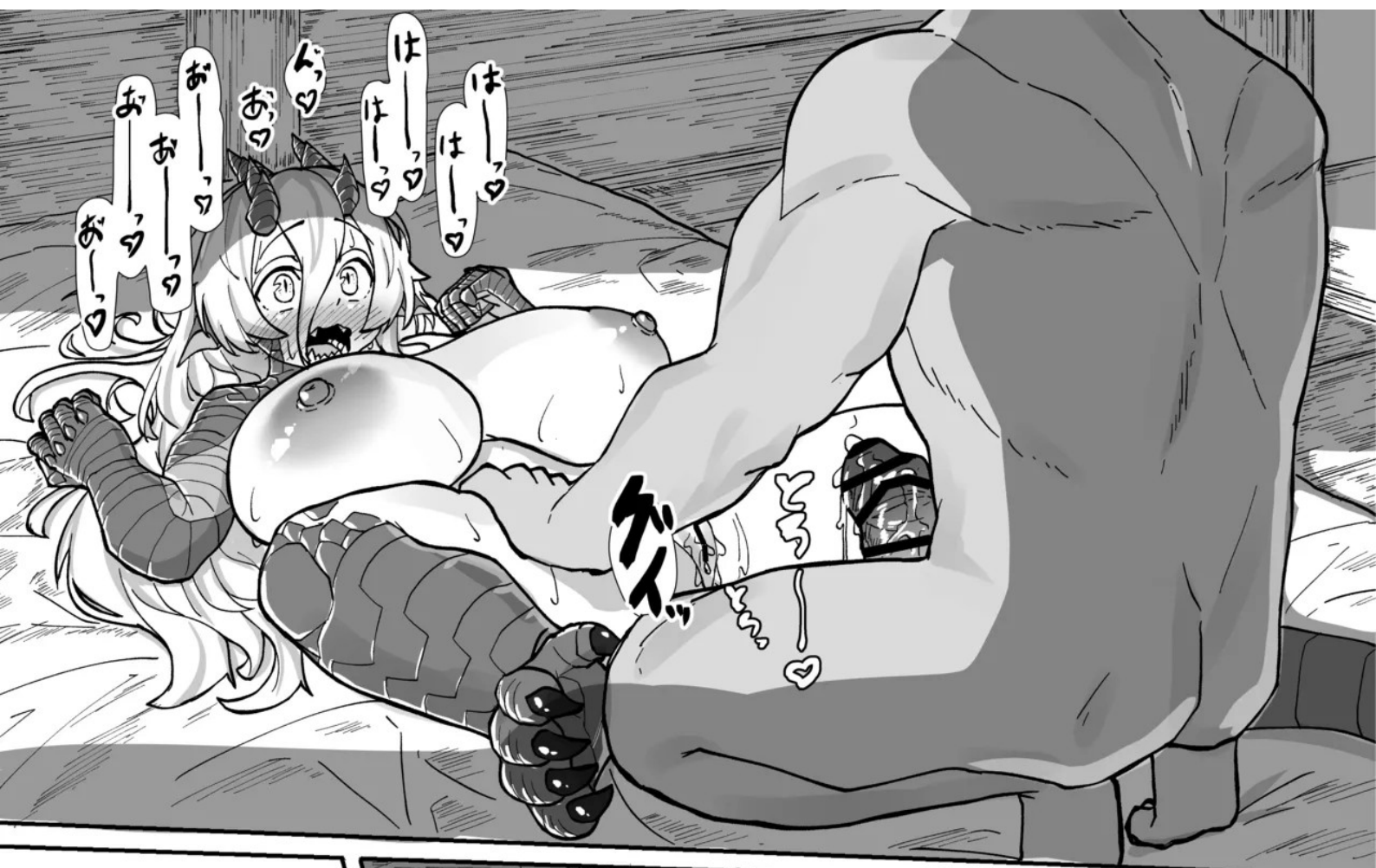


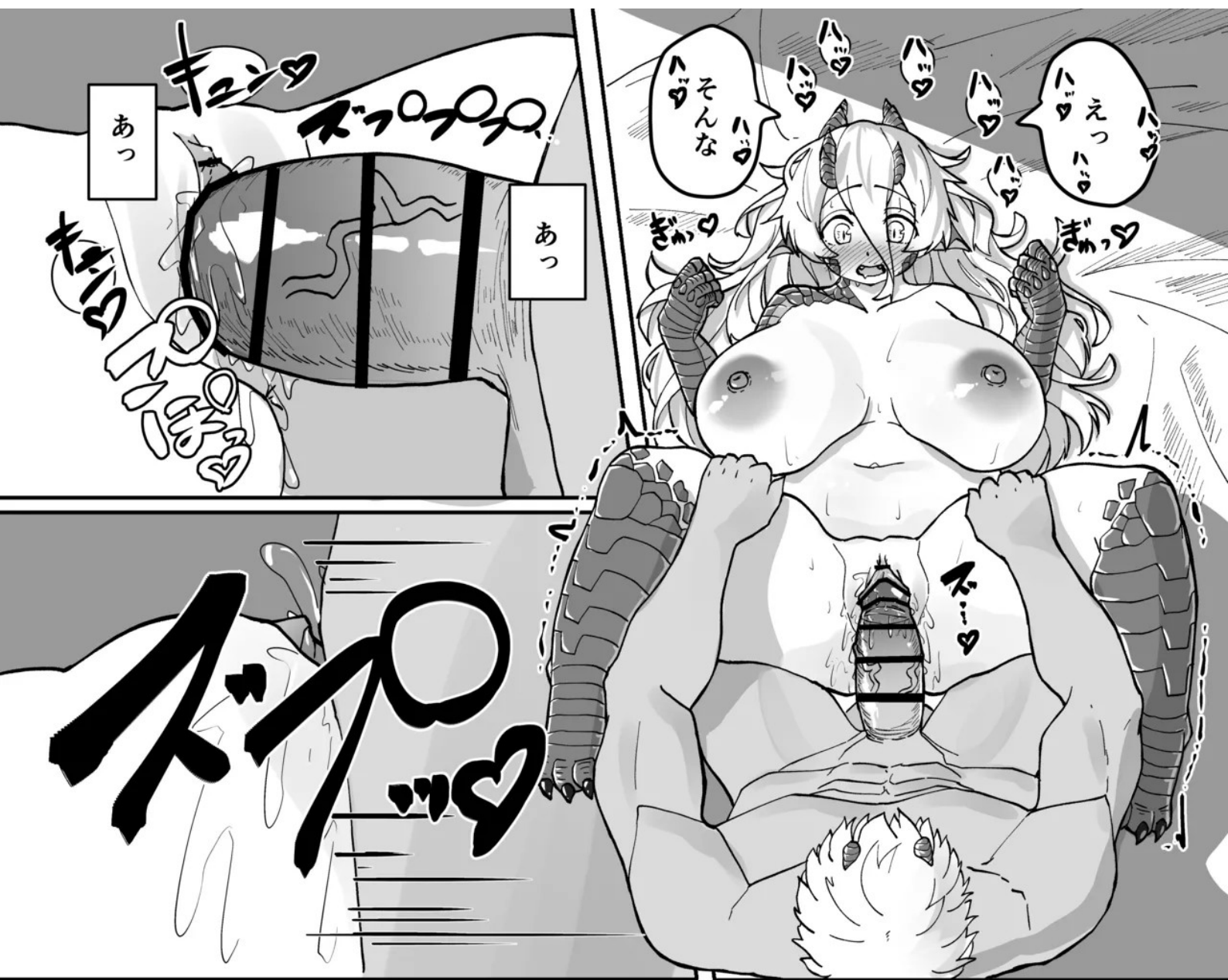
はやく—

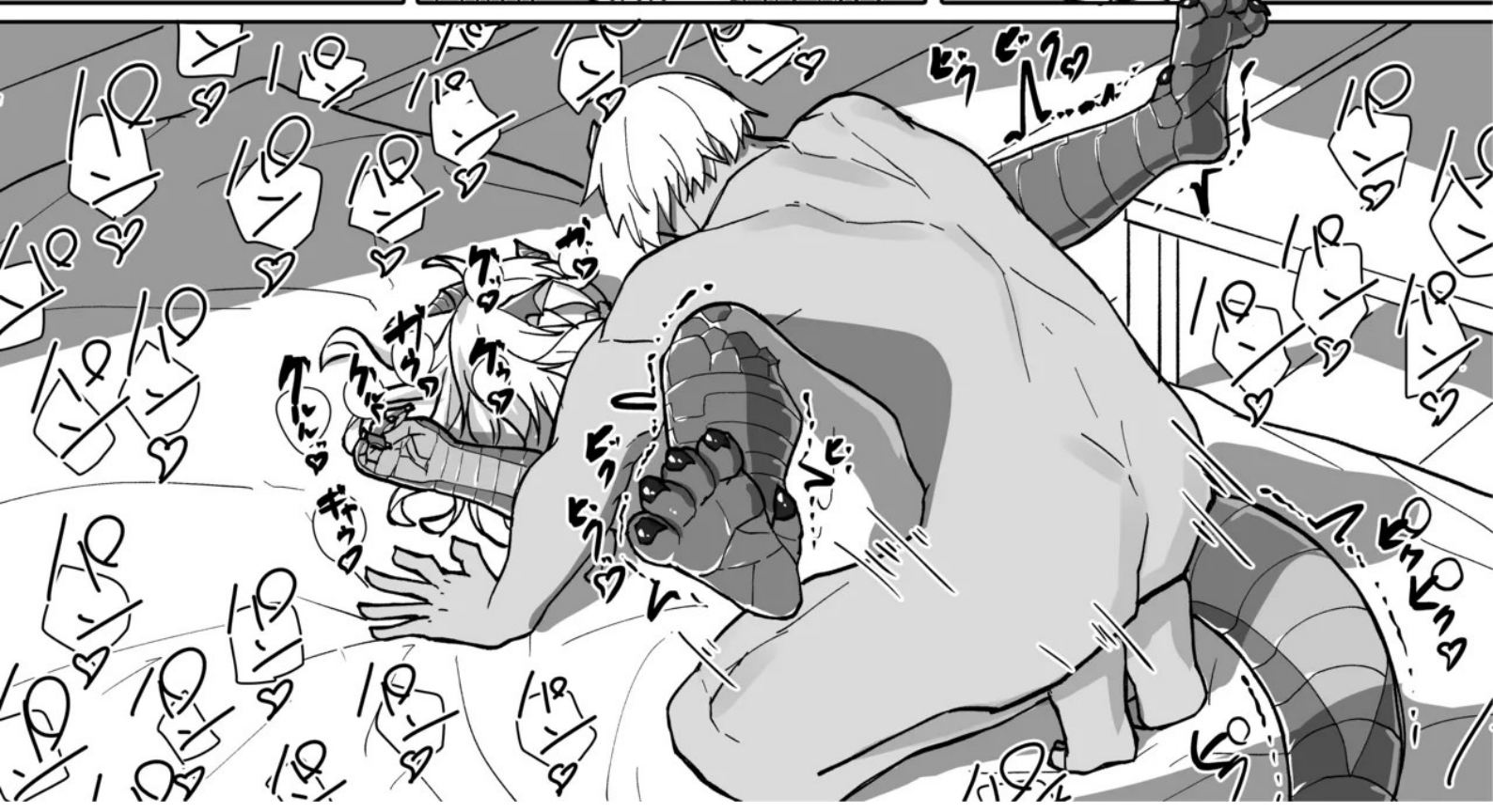


暖かくて
ぬるぬる
きもちい...

すごく
敏感に
なってる

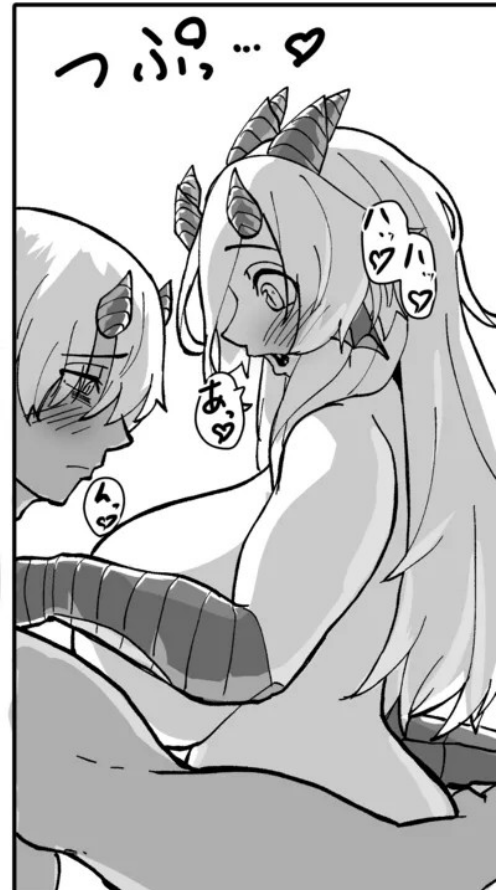
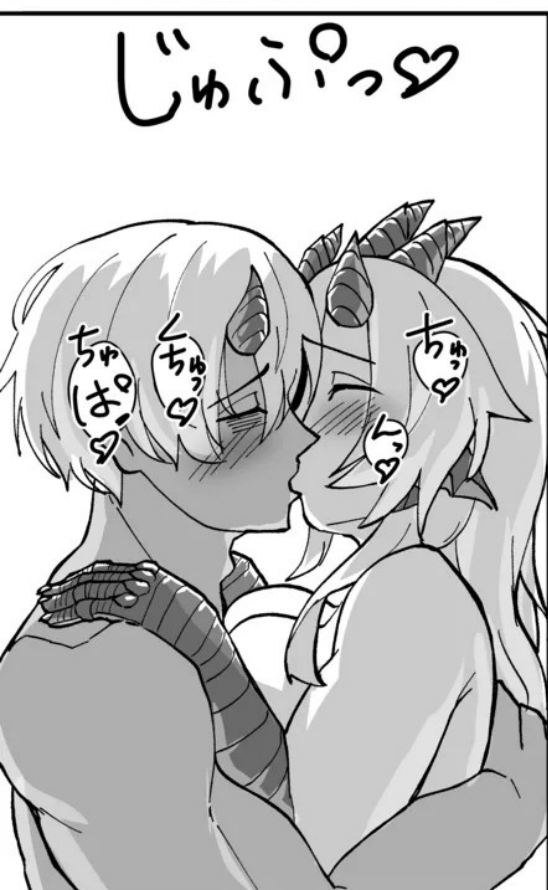








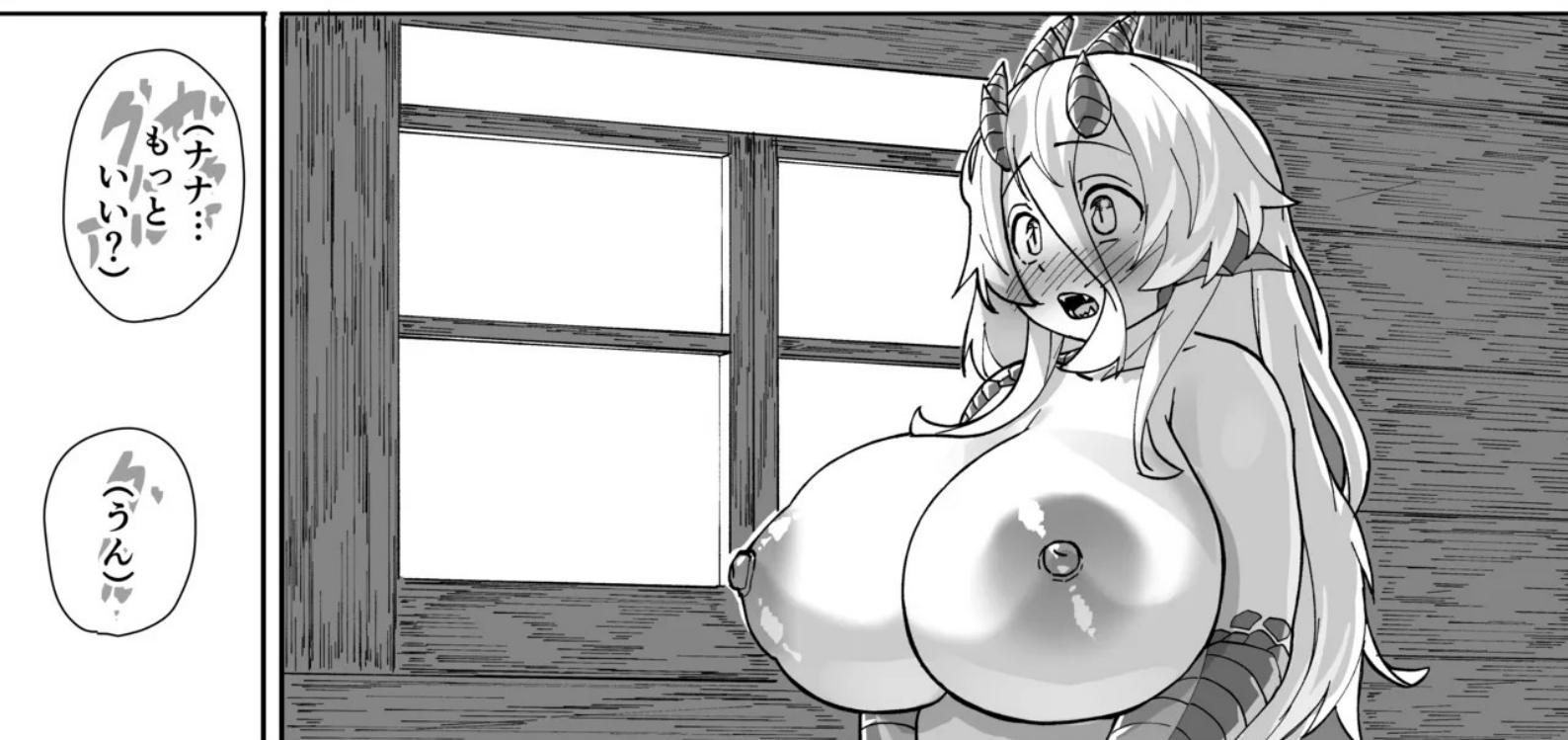


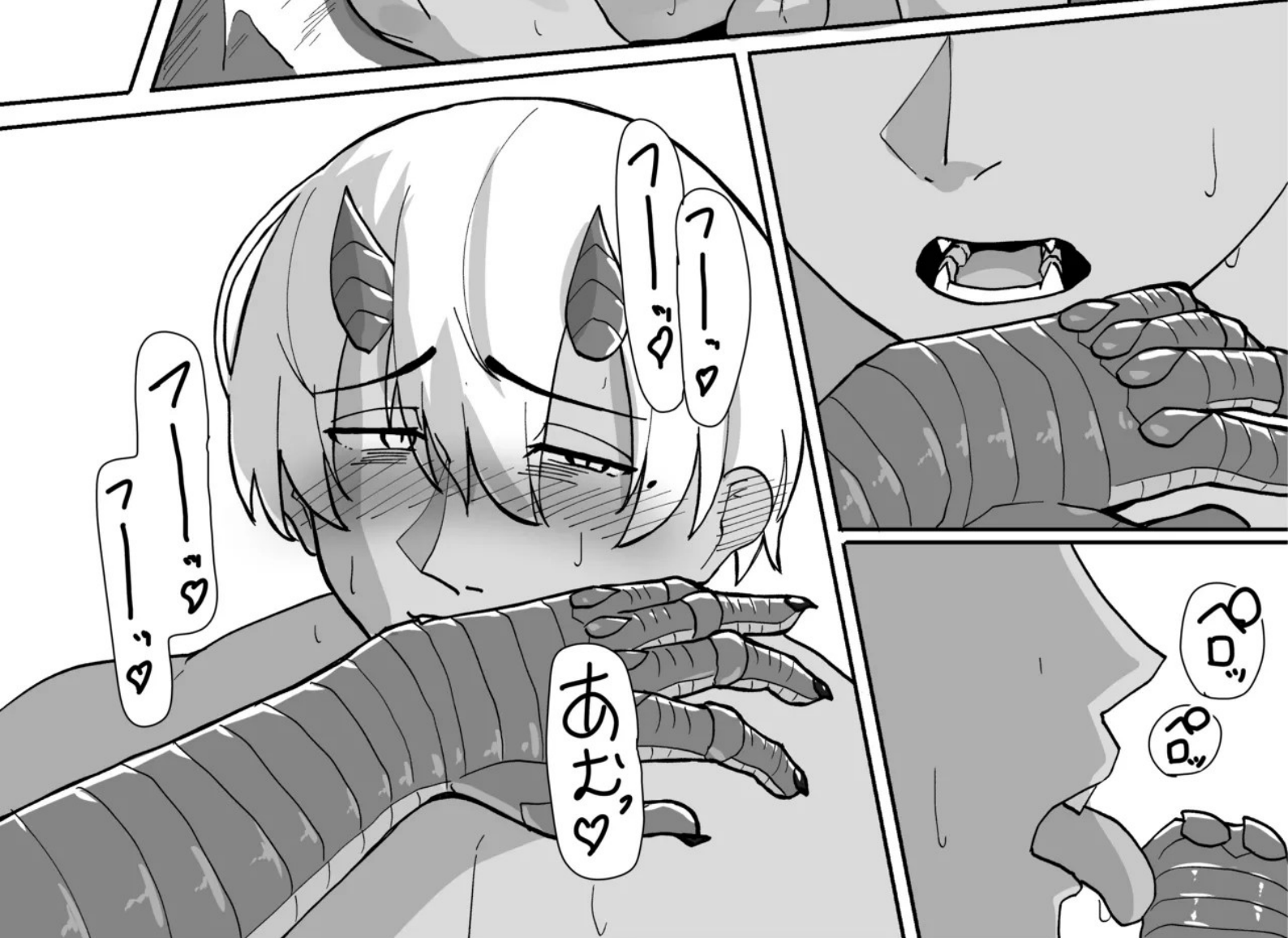
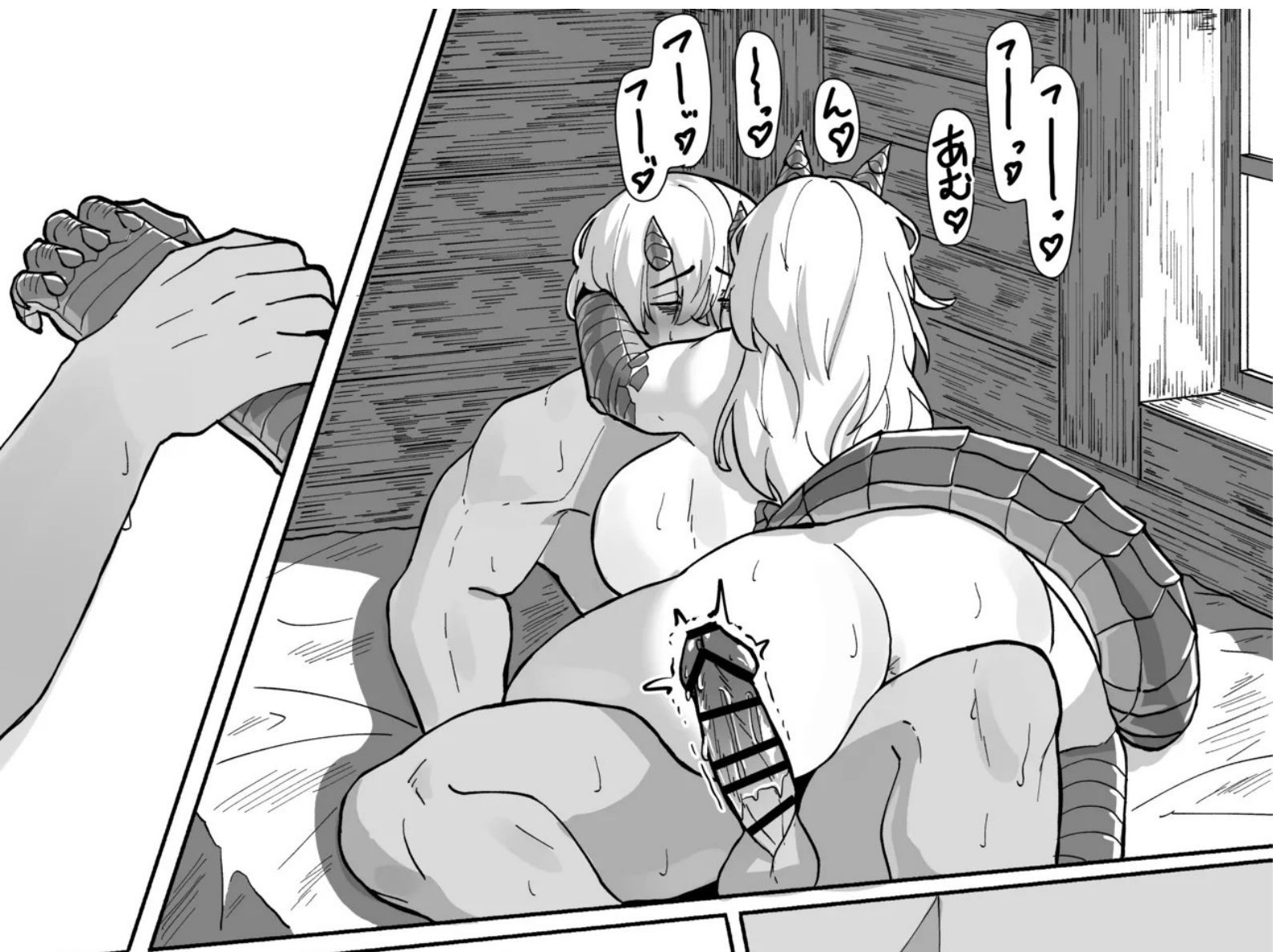
















ン
(イクッ!)

フー
かう♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡





















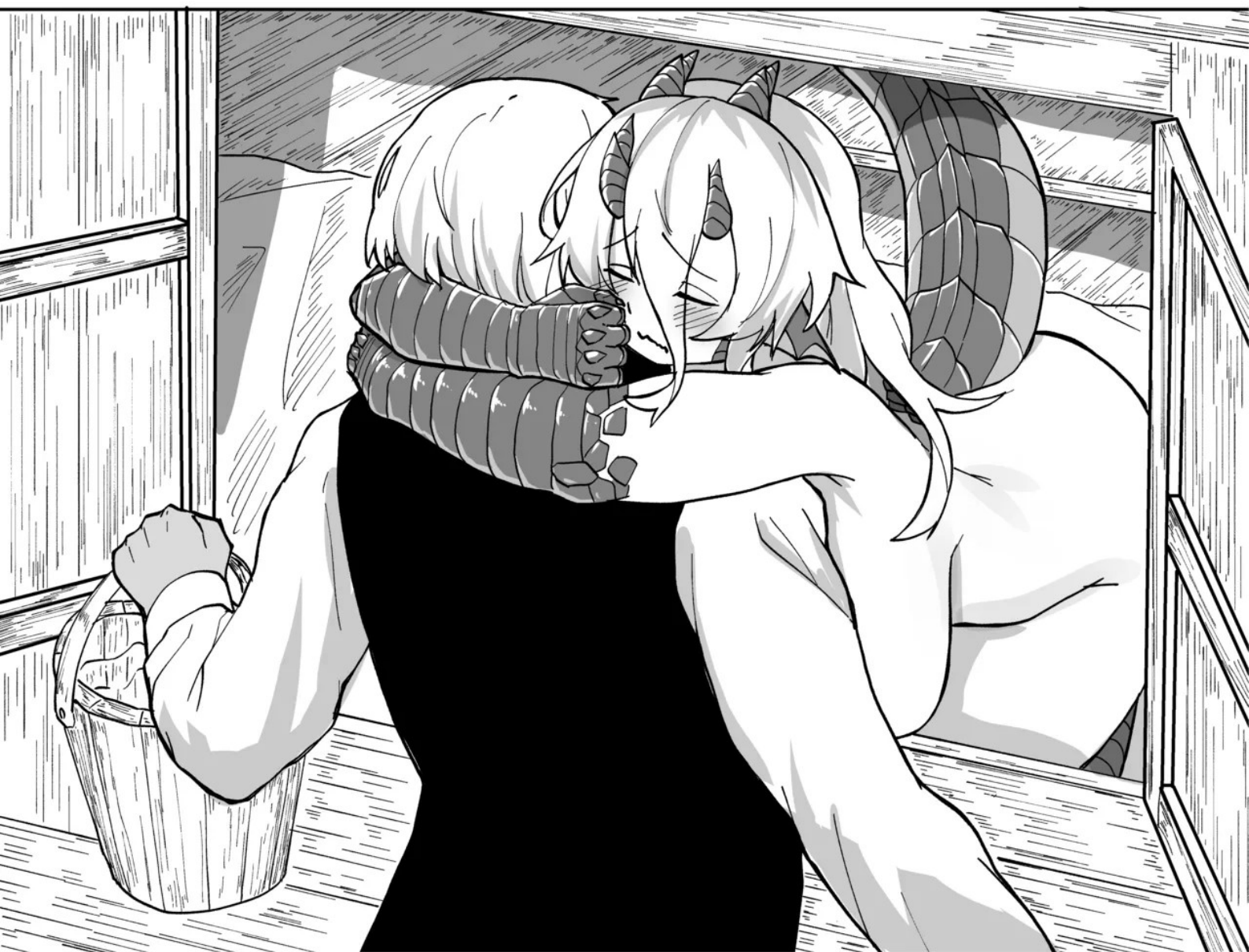




コン
コン

おはよ

ナナ











竜のオスも発情期
あるのかな



ひみつ

そんな



あ！そうだ
うちの父さんの実家
竜の町みたいだし
そこにいこうよ
着いたら教えたい

もう
わかった
落ち着いたら
そこに向かう

おわり

あとがき

この度は読んでいただきありがとうございます。

初めてストーリーを重視したシリーズの
エロ本だったのですが楽しんでいただければ
幸いです。

本来はこの後編を含めた構想が
前編のネーム段階であり
だいぶ前から温めていた内容だったので、
しっかり終わりを描けて安心しております。
内容については、ヒロインの体系が女性向けにしては
だいぶ攻めたしまったのですが
いかがだったでしょうか…。

この辺はストーリーや雰囲気重視して細身小柄にすればと
思うところもありましたが、
自身のモチベーションも踏まえ趣味嗜好を
推させていただきました(すみません…)
また女性向け描きたいと思っているので
感想など物申すことあれば
お待ちしております…

余力があればいつか発情期回みたいな話を
短編で描ければと思います。

サークル：採掘基地

連絡先：saikutsukichi@gmail.com

X(旧twitter)：@kagarimachi_ame

